

令和2年度軽井沢高等学校卒業式

式 辞

軽井沢高等学校長 下井 一志

寒さの厳しいこの軽井沢にも、少しずつ春の気配が感じられるようになりました。今日のこの佳き日に、卒業式を挙げていただけますことを、職員一同たいへん嬉しく思います。保護者の皆様には、多感で成長過程にあるお子様との三年間、様々なご苦勞がございましたと思います。今日この日を迎えられる、感無量のことと拝察いたします。

さて、卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。卒業は、皆さん一人ひとりの努力の賜物であるとともに、温かい愛情を持って励まし見守ってくださった家族や先生、多くの地域の方々の支えのお陰でもあります。感謝の気持ちを忘れないでください。

みなさんはこれから、進学や就職など、それぞれの道を歩んでいきます。新たな生活を想像して期待に胸をふくらませていることでしょう。また同時に、未知の世界への不安も感じていることでしょう。今までのように、多少のことは大目にみてる先生はいませんし、何かあっても助けてくれる家族も、仕事の現場や進学先までは来てくれません。自分の責任で自らの人生を切り開いていく、その入り口に今、君たちは立っています。

そんな時、何を支えに生きていけば良いのでしょうか。

私たちは、これまでの人生で、うれしかったことも悲しかったこともすべて心と体に刻み込まれています。君たちが今選択している進路も、今までの自分の経験から導き出したものであるでしょうし、これから先、何かを見て感動したり、共感したり、自分はこの道でやっという決意するのも、これまでの体験や育った環境、周囲の人から受けた影響などが関係しているはずです。困難を乗り越えようとする強い意志も、これまでの成功や失敗の経験、その時の仲間の支えがその源になるでしょう。

人は、様々な生い立ち、経験を積み重ねながら、その人なりの人生を生きています。十人いたら、十人それぞれの人生があります。これから君たちが生きていく時の心の支えになるのは、この、誰にも替えられない、これまでの、そしてこれから先の人生の積み重ねです。大切なもの、心のよりどころになるものは、自分の中にあるのです。『掌中（しょうちゅう）の珠（たま）』という言葉があります。この言葉を私は、磨けば光る大切なものは自分の掌（て）の中にある、と理解しています。

ぜひ、皆さんには、自信をもって、自分の人生を生きて行ってほしい。その人生という物語の主人公になってほしいと思います。

そしてまた、「人はみなその人なりの物語を生きている」と思えば、人に対しても優しくなれるのではないかと考えています。

軽井沢高校は、これまで一万余の卒業生を送り出し、その多くが国内外、そしてこの北佐

久地域を中心に活躍しています。この地域の経済や教育、福祉、行政、文化事業などを支えているのは軽井沢高校の卒業生です。皆さんも、軽井沢高校で学び経験したことを大切に、誇りをもって生きて行ってほしい、そしていつまでも軽高のことを思い、出会ったら軽高のことを語り合える仲間であってほしいと思います。

最後に、このコロナ禍にあって、コロナに負けることなく3年間の高校生活を、勉強や部活動、生徒会活動に精一杯打ち込んだ、軽井沢高校第七十二回卒業生全員の限りない前途を祝福して、式辞といたします。

令和3年3月4日
軽井沢高等学校長 下井 一志